

創立55周年に贈る問題作

「親の顔が見たい」

内田勉演出 畑澤聖悟作

作者紹介 ● 畑澤聖悟 (はたさわせいご)

青森を拠点に活動する劇団渡辺源四郎商店店主。劇作家・演出家。『俺の尻を越えていけ』で2005年日本劇作家大会短編戯曲コンクール最優秀賞受賞。『親の顔が見たい』が第12回鶴屋南北賞ノミネート。『翔べ! 原子カロボムツ』が第57回岸田國士戯曲賞にノミネート。ラジオドラマの脚本ではギャラクシー大賞、日本民間放送連盟ラジオ娯楽部門最優秀賞、文化庁芸術祭大賞などを受賞。現役の高校教諭であり演劇部顧問。指導した青森中央高校と弘前中央高校を8回の全国大会出場(うち最優秀賞3回、優秀賞3回)に導く。



演出者紹介 ● 内田勉 (うちだつとむ)

1974年、京浜協同劇団に入団。俳優、演出。主な演出作品に「とびだすエンピツ」「とりあえずの死」「収容所(ラーゲリ)から来た遺書」「はだかの王さま」「モモ」などがある。高校演劇部への指導や外部サークルへの太鼓の指導もしている。劇団事務局長。島根県出身。川崎市幸区在住。



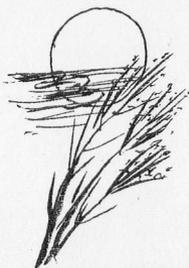
小劇場のため
完全予約制です

「親の顔が見たい」上演日程

2014年	11月					12月			
公演日 曜日	21 金	22 土	23 日	28 金	29 土	30 日	5 金	6 土	7 日
昼2時	●	●	●		●	●	●	●	●
夜7時				●			●		

会場=スペース京浜

前売り 大人=2,900円 70歳以上=2,200円
30歳以下=2,000円 学生=1,500円
当日は各500円増し



被害と加害との区別のつかない「いじめ」競争社会、格差社会の中で押しつぶされそうになっている子どもたち。親にすら、ましてや教師にすら相談できない問題を抱えた子どもたち。
この異常な社会の闇に潜むものは何か。いじめの本質に迫りながら、いじめのない

「いじめ」を活写 競争社会が生んだ

この作品は、中学校の女生徒の「いじめ」問題にメスを入れた作品です。いじめはここまでいっているのかと驚くほどの実態を深く描いています。作者の畑澤聖悟さんは現役の高校教師。高校の演劇コンクールで三度も日本一に輝いた青森中央高校の演劇部を率いています。その力量あふれる作品をぜひ見逃さないでください。



自殺した女生徒、道子の担任の先生(左)を励ます人はいないのか。そばで交わされる親たちの会話に歪んだ社会が浮き彫りになる。

今回の記念公演第二弾「親の顔が見たい」は、いじめをしたとされる子の親たちが「うちの子ではない」と言い争う場面の連続で、ほとんど全員が出ずっぱりの芝居です。その息詰まる場面、意外な展開を見せる結末……。

京浜ならではの舞台上に

社会への願いを込めて上演します。私たちは前回、創立55周年記念公演の第一弾として、日本の戦争の加害責任を追及した団内創作劇「人のあかし2014」(和田庸子作、藤井康雄演出)を川崎と横浜で上演しました。1347人の方々に観ていただくことができ、好評でした。

作者は日本一に三度も輝いた
高校演劇部の顧問



緊迫した稽古が続く劇団稽古場(10月7日)
ほとんど全員が出ずっぱりの芝居で、息詰まる場面が次々と展開する。

あらすじ

舞台は、名門と言われるある私立の女子中学校。会議室に親たちが集まって来る。実は、二年三組の井上道子が教室で自殺したのだ。その道子を発見したのは新任で担任の戸田菜月先生だった。いじめをしたと言われる教家族の親たちが学校に呼び出されたのである。親たちはだれもが「うちの子に限って」と、いじめへの関与を否定する。しかしそこに、生前投函したと思われる道子の遺書めいた手紙が届く。歪んだ社会の実態が浮き彫りになっていく。

この作品を見逃さないでください

京浜協同劇団第87回公演 「親の顔が見たい」

制作ニュース No.1 2014年10月10日発行

一般社団法人京浜協同劇団 ☎044-511-4951
FAX. 044-533-6694 〒212-0052 川崎市幸区古市場2-109
メール keihinkyoudougekidan@nifty.com